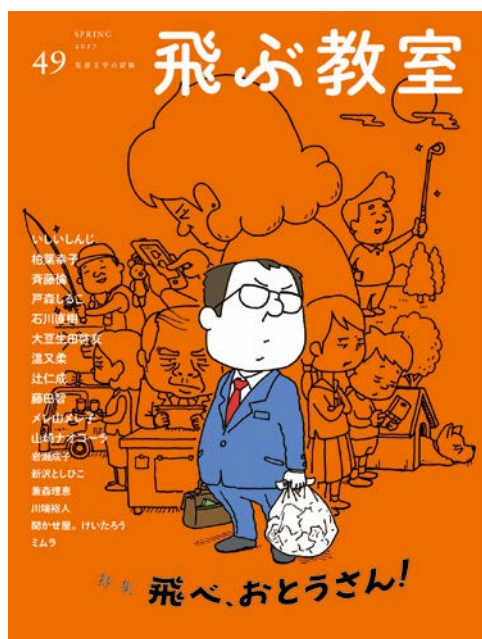


児童文学の冒険

飛ぶ教室

年4回(1・4・7・10月25日)発行



最新号

第49号
(2017年 春)

特集「飛べ、おとうさん！」

おかあさんでも、おばあちゃんでも、
おじいちゃんでもない。今回の主役は、おとうさん！
童話という舞台でなかなか活躍の機会が少ない
おとうさんにスポットライトを当てました。

定価：本体1,000円＋税 ISBN 978-4-8138-0000-2 光村図書出版株式会社

表紙 ● ヨシタケシンスケ
歌 ● 新沢としひこ
創作 ● いいしんじ / 柏葉幸子 /
斉藤倫 / 戸森しるこ
エッセイ ● 石川直樹 / 大豆生田啓友 /
温又柔 / 辻仁成 / 藤田智 /
メレ山メレ子 / 山崎ナオコーラ
書評 ● 岩瀬成子
ブックガイド ● 兼森理恵 / 川端裕人 /
聞かせ屋。けいたろう / ミムラ

英語 Mitsumura English Teachers' Resources COLUMBUS 21 相談室
教育 | No. 01 |

2017年5月12日発行

発行人 ● 小泉 茂
発行所 ● 光村図書出版株式会社 〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話 ● 03-3493-2111 www.mitsumura-tosho.co.jp
E-mail ● koho@mitsumura-tosho.co.jp
デザイン ● Better Days (大久保裕文・深山貴世)
イラスト ● 小林マキ 編集協力 ● 立石恵美子
印刷所 ● 株式会社 加藤文明社

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。
広報誌の配送停止のご希望は、光村図書出版までご連絡ください。



光村図書

2 0 1 7

| No. 01 |

光村図書

英語 相談室 教育 Mitsumura English Teachers' Resources COLUMBUS 21

創刊号

特集

どうする？ 小学校英語

授業レポート

鳴門教育大学附属小学校

新しい学習指導要領の目ざすもの



旅のことは

小林聡美

こう使う！

COLUMBUS 21

トキワ松学園
中学校高等学校

子どものための

BOOK GUIDE

It's a Little Book



旅 のことば



小林聡美
こばやし・さとみ

女優。東京都生まれ。主な出演作に、映画「かもめ食堂」(06)、「めがね」(07)、「プール」(09)、「紙の月」(11)、テレビドラマ「やっぱり猫が好き」(81〜91)、「すいか」(03)、舞台「あの大鵬、さえも」(16)など。『キウィおこぼれ留学記』、『アロハ魂』(ともに幻冬舎)など、エッセイ集の出版も多数。

おもいでで列車の旅

初めての海外旅行は高校卒業を控えた春休みのこと。友達とふたりで、その頃流行っていたバックパッカー的なヨーロッパ周遊旅行を計画した。英語の勉強は中学、高校の授業のみだった私と、アメリカで夏休みのホームステイを経験済みの友人の英語も私よりややマシなレベル。どうにも頼りないふたりだった。

当時は今よりも海外の情報は大雑把。言葉はもちろんのこと、まさにカルチャーショックの連続だった。美術館の絵画や、歴史的建造物に感動しつつも、街には怪しい目つきの人がうろつき、宿の風呂は途中で水になり階段の踊り場の電灯はタイマーが数秒で切れ真っ暗になった。日本の日常とうってかわって、緊張の連続だった。

それでも列車の旅は楽しかった。ミュンヘンからザルツブルクへ向かう列車で、ドイツ人の陽気なおじさん三人と同席になった。珍しいアジアの小娘にどこから来たのか、どこへ行くのかいろいろ英語で話しかけ、持っていたお菓子をたくさんくれた。私たちも一生懸命英語で話した。ビートルズが好きでリバプールにも行って、これからサウンド・オブ・ミュージックのロケ地も見ると、とかなんとか。おじさんたちは、私たちの不自由な英語でも、よく聞き、よく笑い、よく感心してくれた。入国や予約などの緊張を伴う英語とは違って、理解し合おうとする友好的な会話は言葉半分、気持ち半分で十分伝わるのだと、温かな気持ちになった。私たちはお礼に、かっぱえびせんを使い捨ての紙カイロをあげた。「振ると温かくなりますよ」とジェスチャー付きで説明すると、「お——っ」とおじさんたちはどよめいた。

あの列車の小さな空間で、言葉に頼らないコミュニケーションの温かさを体験したけれど、でもこれで言葉があれば最強だと思った。もっと話せるようになりたいと思った。英語の勉強をさぼりがちな昨今、それは原点にもどる思い出だ。

創刊にあたって



光村図書は、創業以来「ことば」に関わる出版業としての教科書発行を中心に、多くの先生方や児童・生徒の皆様と共に歩んでおります。平成5年からは中学校の英語教科書を発刊し、外国語教育にも一石を投じてまいりました。

平成32年度より、小学校で英語が教科化されることを見据え、その指導法や情報提供などは、中学校英語の教科書発行者の責務と考えまして、このたび『英語教育相談室』を創刊いたしました。

小学校・中学校での英語教育充実の一助となりますよう心から願っております。

光村図書出版株式会社
代表取締役社長 小泉 茂

旅のことば

おもいでで列車の旅
小林聡美

特集 02 どうする？ 小学校英語

授業レポート 鳴門教育大学附属小学校

「Special Pamphlet を作ろう!」
青山祥子・Christopher B. Prowant / 畑江美佳

新しい学習指導要領の目ざすもの
小泉 仁

連載 16 こう使う! COLUMBUS 21 [第1回]

トキワ松学園中学校高等学校
平山朝子

20 小中をつなぐポイント [第1回]

小中連携の三つのポイント
太田 洋

22 小学校英語 お悩み相談室 [第1回]

自分の英語力をつけるには?
掲示物をつくるときの注意点は?
小泉 仁

24 子どものためのBOOK GUIDE [第1回]

It's a Little Book
金原瑞人





青山祥子先生・Christopher B.Prowant先生 ~~×~~ 5年1組 (児童数33名)

03

単元名 My Friends, My School —日本の学校を伝えよう—

目標

- 既習の英語表現を活用して、友達や外国人と積極に関わることができる。
- 既習の英語表現を活用して、外国人に日本の学校を紹介したり、パンフレット作りの中で、英語を書いたりしようとする。
- オーストラリアの文化や言語に興味をもち、日本と比較し、共通点や相違点を感じることができる。

準備するもの

児童：筆記具、ノート、
My Language Passport (※)
教師：ホワイトボード、文字カード、
ワークシート、電子黒板、
パワーポイント

指導計画(全7時間)

第1次 オーストラリアの友達を知る(1時間)

オーストラリアの姉妹校(クイーンズランド州ギルストン小学校5年生)に送ったインタビューシートの返事(英語)を、辞書で調べたりALTに質問したりしながら読み、自分たちの生活と似ているところや違うところを知る。

第2次 パンフレット作りをする(5時間)

自分や学校のことを伝えるために、「自分の1日のスケジュール」「自分の好きな時間」「時間割」「学校の先生」を紹介するパンフレットを作る。

第3次 交流会をする(1時間)

姉妹校の友達とスカイプで交流会を行う。(姉妹校の児童は日本語を学んでいる。)

※My Language Passport

児童の自己評価と習熟度確認のための冊子。鳴門教育大学小学校英語教育センターが、文部科学省のCAN-DOリストをもとに作成した。附属小学校の児童はこの冊子を持参して授業を受ける。



Who am I ?

“We are making the special pamphlet, right?”と、クリス先生は切り出した。

本単元では、オーストラリアの姉妹校に、自分たちの学校を紹介するためのパンフレットを作る(左の「指導計画」参照)。子どもたちは、前時までに、「自分の1日のスケジュール」や「時間割」を紹介するページを作成している。本時では、「先生」を紹介するページを作る。

クリス先生は、“Today is the teacher’s page. So, we should practice.”と言い、電子黒板に“this is Mr. _____.”というスライド(図1)を表示した。

クリス Can you read it?

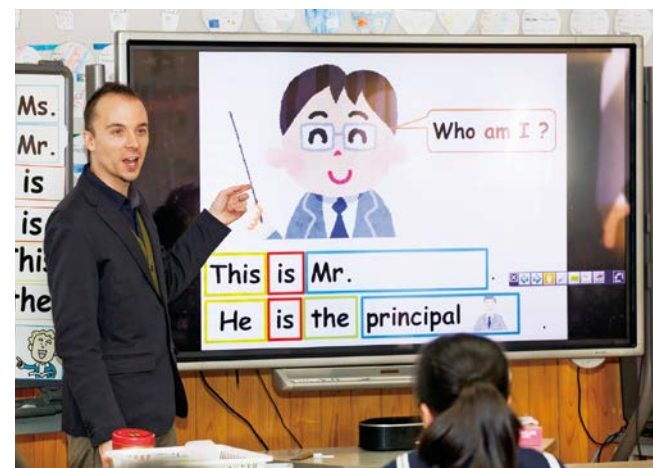
児童1 This is Mr. (ゆっくり読み上げる)

児童2 Mr. Chris!

青山 どうしてそう思うの?

児童2 ミスターだからクリスかなと思って。男の人でしょ?

青山 そう、よく気がついたね。



いい気づきをする子どもがいたり、適宜、青山先生が入り、その発言を取り上げて褒める。

続けてクリス先生は、“He is the principal.”という文章(図2)を表示。“principal”を指して、“What’s this?”と尋ねた。初出の単語にとまどう子どもたち。しかし、男の先生であることと、未習の単語であることから予想して、ある児童が「校長先生?」とつぶやいた。すかさずクリス先生が、“Very good! You are smart!”と褒め、“principal”を全員で発音練習した。

そして、次のスライド(図3)を表示して、“Who is he?”と投げかけると、子どもたちは「安田先生!」と校長先生の名前を答える。クリス先生が、校長先生の写真(図4)を表示すると、「おお」と歓声が上がって笑顔に。その後、“This is Mr. Yasuda. He is the principal.”と音読をした。

同様に、教頭先生(vice-principal)についても、スライドを使って音読していく。“She is the vice-principal.”と音読したとき、青山先生が「vの発音は難しいよ。クリスの口元に注目してね。One more time, please.」と言うと、クリス先生はもう一度、“She is the vice-principal.”と範読し、viceを発音するときに、唇に指を当てて、子どもたちに注意を促した。

教頭先生の名前は、“Ms. Fujishima”。青山先生が、「ローマ字、ちゃんと覚えているかな。『ふ』は、Huじゃなくて、Fuだよ」と言うと、クリス先生が、“In English, we usually say Fujishima.”とFを強調して発音。子どもたちもそれに続いて音読した。

授業の進行はクリス先生が行うが、子どもたちが間違えやすいところは、青山先生が適宜入り、日本語できちんと説明する。そして、それを補完するようにクリス先生が英語で発音。絶妙なチームプレーだ。



授業で使ったスライド

電子黒板に映すスライドはすべて青山先生の手作り。

This is Mr. _____

図1

This is Mr. _____
He is the principal

図2

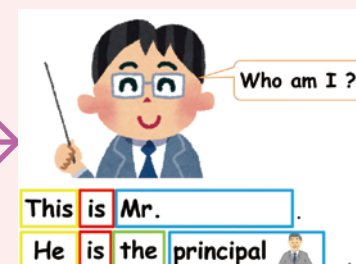


図3



図4

教科の名前を復習しよう

“Now, let's review the subject.”

クリス先生はそう言い、既習の「subject(教科)」を、スライドで順に映していった。

“Japanese!”, “Science!”などと、子どもたちは自信たっぷりに読み上げていく。ひと通り教科名を言い終えた後、

“Let's play the matching game!”

とクリス先生は言い、カードを配付。本日の“matching game”は、教科のイラストが描かれたカードと、英語の教科名が書かれたカードを合わせるという内容。子どもたちは、教科名を学習したときに、このゲームをしたことがあるのでルールは心得ている。今回は、新たに“principal”“vice-principal”“school nurse(保健の先生)”というカードが加わる。

青山先生は、机を回って子どもたちがゲームの準備ができているのを確認し、クリス先生にOKの合図を出す。

“Are you ready? Start!”



と先生が言うと、子どもたちはいっせいにカードを手にする。制限時間は2分。表情は真剣そのものだ。

青山先生が「声に出して読みながら、カードを置こうね」と言うと、「社会はsocial studies, 美術はart……」などと楽しそうに英語を読み、カードを合わせて置いていく。1分半を過ぎると、「できた!」という声が聞こえ始め、2分過ぎたところで、タイムアップ。全員がカードを置き終わったことを確認し、青山先生はカードを集めるよう指示。机を回って、子どもたちが片付け終わったのを確認すると、

“Please look at the screen.”

と、クリス先生のほうを指さした。



イラストと、英語の教科名を合わせる“matching game”。楽しみながら、自然と英語を読み、カードを合わせて置いていく。カードはすべて青山先生の手作りだ。



Mr. それともMs.? He それとも She?

“OK. Part 2!”

とクリス先生は言い、電子黒板にスライド(図5)を表示した。先ほどのスライドと同じように見えるが、“Mr. ____”と“He”の入る部分が空欄になっている。

クリス Please look at the words. This is...

(と言いながら、This is の後ろを指さす)

児童3 Mr.

児童4 Ms.

クリス (目を丸くして)Ms. ?!

児童4 (慌てて)Mr. !

児童一同 笑い

クリス This is Mr.Yasuda. Then... (と言いながら、2行目の空欄を指さす)

児童5 He!

クリス He is the principal.

次に、教頭先生のスライド(図6)を映す。女性なので“Ms.” “She”を使うことを確認するが、ときどき“Mr.”や“He”と言い間違える子どもがいて、そのつど盛り上がる。その後、各教科の先生(本校では高学年で教科担任制をとっている)を確認していく。

体育の先生のスライド(図7)が映し出されると、楽しいポーズをとる先生の写真に、子どもたちは大爆笑。国語の先生、理科の先生……と、身近な先生の写真が画面に大きく映し出されるたび、子どもたちは大喜び。音読する声もどんどん大きくなり、教室は熱気を帯びていく。

全教科の先生の確認が終わったところで、青山先生が、“Today, be careful, about he or she, Mr. or Ms.”とまとめた。すると、ある子がおどけて、“Ms.Chris?”と言うと、クリス先生が“No! Be careful!”と言い、教室は笑いに包まれた。



授業の要所で、青山先生が入って補足説明する。

授業で使ったスライド



図5 校長先生



図6 教頭先生

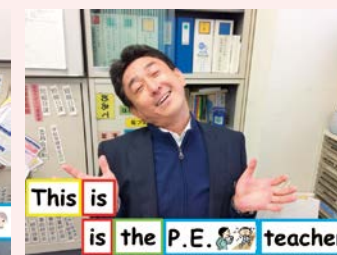


図7 体育の先生

先生を紹介する文を書こう

いよいよ、先生を紹介するページを作る。好きな先生を一人選び、

This is _____.
____ is the _____.

の文を作って、先生の写真を貼ったワークシートに書く。子どもたちは、「どの先生にしようかな」と、書きたくてうずうずしている様子。

しかし、音読はスムーズにできても、英文を書くことは、子どもたちにとってハードルが高い。そこで、先生は細かくステップを踏んで、文を書かせることにした。その手順はこうだ。

①みんなでいっしょに文を作る

全員で、クリス先生といっしょに文字カードを並べ替えて文を作る。

②各自でカードを並べ替えて文を作る

小さなホワイトボードと文字カードをもらい、各自でカードを並べ替えて文を作る。先生の名前は自分で書く。ローマ字表記が不安な子は、青山先生からローマ字表を借りる。

③青山先生のチェックを受ける

ホワイトボードに文が作れたら、青山先生にチェックしてもらおう。OKが出たら、紹介する先生の写真とワークシートをもらう。

④ワークシートに書き写す

ワークシートに先生の写真を貼り、ホワイトボードで作った文をそのまま書き写す。

子どもたちがつまづかないよう、いきなりワークシートに英文を書かせるのではなく、まず文字カードを並べて文を作り、それを書き写す、という段階を踏ませた。

②では、文字カードを並べ替えるまでは順調だが、先生の名前をローマ字で書くところで、迷っている子がちらほら見られる。青山先生は、子どもの横に寄り添って、ローマ字表を見ながら、いっしょにどう表記したらよいか考える。いっぽう、クリス先生は教室を回り、スペルミスを指導したり、名前の最初のアファベットを小文字にしている子に大文字にするよう伝えたりする。二人の先生が、うまく役割分担をして机間指導を行うことで、どの子も徐々にワークシートを完成させていった。

④まで進んだら、ワークシートに書いた英文をクリス先生の前で読む。先生は、"Good job!"



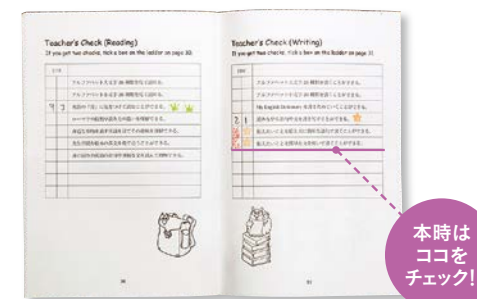
紹介文を書いたワークシートをクリス先生が確認。



できたパンフレットを広げて、会心の笑み。

"Perfect!"と、一人一人を褒めながら、「My Language Passport」※にスタンプを押す。子どもたちは照れながらもうれしそうだ。いつしか子どもたちがクリス先生を取り囲み、教室はいっそうにぎやかになる。

クリス先生のチェックが済んだ子どもたちは、



本時はココをチェック!

※P4でご紹介した「My Language Passport」には、Teacher's Checkというページがあり、児童が授業の目標を達成していたら、教師がスタンプを押す。

これまで作ってきたパンフレットに、本時で作ったページを、マスキングテープで貼り付ける。これで、パンフレットが完成。子どもたちは、できたパンフレットを広げ、満足そうな表情を浮かべている。

そして、そろそろ授業が終わりに近づく。青山先生は“Let's start the final activity.”と投げかけ、本時で学習した英文と絵を結ぶ設問と、自己評価欄のあるプリントに取り組みさせた。子どもたちは黙々と鉛筆を走らせる。答え合わせが終わったところで、終業の時間。

“That's all for today. See you!”

“Thank you!”

と、二人の先生が言うと、子どもたちも元気よく“See you!”と応じ、笑顔で教室を後にした。

本時の「書く活動」の流れ



①みんなでいっしょに文を作る

全員で“This is Mr.Chris. He is the English teacher.”という文を作る。



②各自でカードを並べ替えて文を作る

手元のホワイトボードで、カードを並べ替えて文を完成させる。先生の名前はマーカーで書く。



③青山先生のチェックを受ける

自分の作った文を、青山先生に確認してもらう。



④ワークシートに書き写す

ホワイトボードで作った文を、先生の写真を貼ったワークシートに書き写す。



先生の紹介ページが完成!

保健の先生を選んだ児童の作品。
“This is Ms.Saito.
She is the school nurse.”という英文の他に、先生の紹介文を日本語で追記している。

授業を終えて

子どものモチベーションを大切に

今回、三人称を取り上げたいと思い、子どもたちに身近な「先生」を題材にしました。でも、みんなで同じ先生を紹介するのではなく、「自分の好きな先生を選んで紹介する」ことにしました。そのほうが、子どもたちの「書きたい」という意欲を引き出せると思ったからです。

私は、英語を教えるうえで、子どもたちのモチベーションを第一に考えています。中学年の頃は、友達と英語で話せただけで満足するのですが、高学年になると、外国人に本当に伝わったかどうかということも気にし始めます。ですから、この単元でも、最後にオーストラリアの姉妹校との交流学習を設定しました。

いつも指導案は私が考え、必ずクリス先生と事前打ち合わせをします。授業が始まったら、進行はクリス先生にお任せし、私は子どもの反応を見ながら、英語や日本語で補足説明をし、授業についてこれない子が出ないよう気を配ります。クリス先生と教えるようになって2年になりますが、日に日にうまく役割分担しながら、授業が進んでいると感じています。(談)



青山祥子

あおやま・しょうこ
鳴門教育大学附属小学校教諭。
徳島県生まれ。大学卒業後、公立校勤務を経て、2013年より現職。鳴門教育大学小学校英語教育センターとの共同研究に携わる。

Good Relationship & Teamwork

私が、子どもたちに英語を教えるときにいちばん大事にしているのはコミュニケーションです。そのため、英語の授業が始まる前、必ず教室の入口に立ち、入ってくる子どもたちと笑顔で挨拶を交わすようにしています。また、子どもたちとは、普段からファーストネームで呼び合うようにもしています。

授業は二人で行いますが、指導のプランはすべて、青山先生が考えてくれます。彼女がいいプランを考えてくれるので、授業をするのがとても楽しいですよ。

授業の前に必ず打ち合わせをしますが、青山先生がいつも「何かアイデアはある？どんなアクティビティをしたらいいと思う？」と尋ねてくれるので、よく二人で話し合います。普段から信頼関係が築けているので、授業もいいチームワークで進めることができ、とてもスムーズですよ。Good Relationship & Teamwork——これが日本人の先生とALTがいっしょに授業をするとき、最も大事なことだと私は思っています。(談)



Christopher B. Prowant

クリストファー・プロワント
鳴門教育大学附属小学校・中学校のALTを務める。
米国オレゴン州生まれ。2011年に来日。英会話教室や高専での講師などを経て、2015年より現職。

授業を参観して

鳴門教育大学附属小学校へ、英語の指導に入られている畑江美佳先生に、今回の授業を参観していただきました。

「伝える」ための読み書き指導

今 回の青山先生の授業では、2020年度から始まる、文字指導を含めた小学校外国語をイメージしていただけたのではないのでしょうか。私が所属する鳴門教育大学小学校英語教育センターと附属小学校英語科は4年目となる共同研究の中で、新しい学習指導要領に含まれる、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる」という目標の具現化を目指しています。

本単元で扱った教科名、This is ～. He (She) is ～. は、今後、5年生の指導内容に含まれるとされています。青山先生は、新出語彙や表現の指導は必ず音声から入り、時間を置かずに文字も提示し、その意味や文構造は決して教え込まず、児童自らが気づくように工夫しています。3・4

年生の興味を引く方法で大文字・小文字を指導し、5年生の4月から音声と文字とを関連付けて指導したことにより、情報を得るために文字を読む「すべ」を知り、自分の想いを伝えるために書くことを知った児童は、5年生の後半から、積極的に深い学びを得るようになりました。

また、読み書きは単調な個人作業に陥りやすいため、授業では必ず「相手意識」をもたせ、誰かに「伝える」ために読んだり書いたりする仕掛けを施すことを徹底しています。英語で伝える相手は、海外の交流校の子どもたちでも身近なALTでもいいと思います。

そして、単元の目標設定から最後の学習成果までを系統的に積み上げる「My Language Passport」(P4参照)の活用は、4技能＋異文化理解の自己評価、そして教師の評価指標にもなります。この活用により、児童が目標をもって英語に取り組み、その達成度が可視化されることで次の目標に繋げ、卒業時には、自信をもって中学校の先生に渡す「パスポート」となることを期待しています。



畑江美佳

はたえ・みか
鳴門教育大学准教授。東京生まれ、秋田育ち。米国カリフォルニア州の高等学校を卒業後、日本大学文理学部文学専攻(英文学)、同大学院総合社会情報研究科修士課程・博士課程修了。鶴岡工業高等専門学校 准教授などを経て、2012年4月より現職。専門は英語教育学。



新しい学習指導

要領の目ざすもの

学習指導要領改訂

全体的なポイント

昨年12月に中央教育審議会の答申が出されました。今回の答申の特徴は、「何を学ぶか」ととどまらず、なぜ学ぶのか、どのように学ぶか、学んだ結果、何ができるようになるのかを重視するよう、新しい学習指導要領に求めたことです。それを受けた改訂の大きなポイントは、右の3項目です。



学習指導要領改訂の方向性

● 学習指導要領の書き方を見直す

これまでは「教員が何を教えるか」が記述の中心だったが、今回は児童・生徒の学びを中心に「何のために、どんな力を育むか、育まれた力をどう用いるか」を詳しく記述。

● 言語能力(国語・外国語)を重視する

教育の基本として全ての教科で言語能力を育成。国語と外国語が重要。小学校英語は教科に。

● 三つの資質・能力を育成する

「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つを一体的に育成。

2017年3月に、小中学校の学習指導要領が告示されました。

小学校では、2018年・19年の2年間を移行期間として、2020年から英語教科化を含む新しい教育課程が全面実施されます。

小学校英語はどのようなのか、何が変わるのか、向かうべき方向は——。

文部科学省の初等中等教育局教科書調査官の経歴もある小泉 仁先生が解説します。

小泉 仁 こいずみ まさし
東京家政大学教授

元・文部科学省初等中等教育局教科書調査官。
日本児童英語教育学会(JASTEC)会長。一般財団法人語学教育研究所理事。
中学校英語教科書『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の編集委員を務める。



学習指導要領改訂

小学校外国語(英語)のポイント

外国語教育については、教科化にあたり、答申で「外国語教育の抜本的強化のイメージ」が示されています。いくつかの項目について、具体的に見ていきましょう。



回の答申を受け、新しい学習指導要領では、すべての教科・科目の「目標」「内容」の項に、学ぶ目的や育むべき力を、具体的に記述しました。

また、答申が求める国語力と外国語力重視の方針に沿い、中学校英語の前倒しでない小学校の「外国語科(英語)」が導入されました。

「三つの資質・能力」の考え方によれば、理解したり覚えたりするだけで学習が完成するのではなく、その知識や技能を用いて、考え、判断し、伝える力を養うことまでが、教育の目的です。さらに、児童・生徒が他の人々や社会と関わりながら、自ら学びを深め、発展させ、人間性を養うことまでを視野に入れた考え方です。

この考え方は、指導法だけでなく、学習評価の方法にも反映されることになります。

以上は、次のようにまとめられるでしょう。

新しい学習指導要領で「実現できるようにすること」

- ① 学ぶ目的を明らかにして、知識及び技能が習得されるようにすること。
- ② 身につけた知識・技能を用い、思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- ③ 自ら対話的で深い学びに向かう力、人間性等を涵養すること。

授業時間(1時間は45分)

現在	2020年から	
5・6年生	3・4年生	5・6年生
週1時間、 年間35時間	週1時間、 年間35時間	週2時間、 年間70時間



科としての外国語(5・6年生)は、70時間。教科になり、ある程度の知識や技能の定着を図る必要があるため、時数が増えました。もちろん、英語の基礎として重要な、音声の指導が優先であることは変わりません。「読む・書く」の指導は限定的です。

増えた35時間や3・4年生に入る外国語活動については、今のままの時間割に組み込むこと

は、難しいと考えられるので、15分×3などの短時間(モジュール型)授業や、60分授業を設定するなどの工夫が提案されています。夏休みを数日減らして対応する可能性もあるでしょう。モジュール型を採用する場合には、読書や計算ドリルなどの自由な課題とは違い、先生が「授業」をするべき時間になります。有効な扱い方や教材の工夫が大きな課題です。

学習内容

現在	2020年から	
5・6年生	3・4年生	5・6年生
〔活動型〕 「聞く」「話す」を中心としたコミュニケーション能力の素地を養う。	〔活動型〕 言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら聞いたり話したりすることを中心としたコミュニケーション能力の素地を養う。	〔教科型〕 言語やその背景にある文化の多様性を尊重し、相手に配慮しながら聞いたり話したりすることに加え、読んだり書いたりすることについての態度の育成も含めた、コミュニケーション能力の基礎を養う。

2 2020年からの新しい学習指導要領全面実施に先立ち、移行期間の2018年、2019年には、一部の学校で教科としての英語が先行実施されます。この間に使う教材は、現在、文科省が制作を進めています。そのポイントとして、

1. アルファベット文字の認識
2. 日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気づき

3. 語順の違いなど文構造への気づき等が挙げられています。

また、学習指導要領では、語彙は600～700語程度を取り扱うよう示されました。

これらを学び、「自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。」といった、発達段階にふさわしい力を育成することを目指します。

指導体制

現在	2020年から	
5・6年生	3・4年生	5・6年生
〔活動型〕 学級担任を中心に指導。	〔活動型〕 主に学級担任がALT等を一層積極的に活用したT・Tを中心とする指導。	〔教科型〕 学級担任が専門性を高めて指導する。同時に、専科指導を行う教員を活用したり、ALT等を一層積極的に活用したりする。

今 後の指導体制について、重要になるのが教員の育成・研修です。英語の音声や文字の指導、カリキュラム作成や評価についての専門知識をもつ教員が必要となってきます。

文科省では現在、「小学校英語教育推進リーダー」を育成し、そのリーダーが各校の中核教員を指導し、中核教員が校内研修を実施する、

という研修モデルを進めています。また、大学での教員養成課程で学ぶべき内容は「コア・カリキュラム」の試案を基に検討されています。

新しい英語指導観としては、コミュニケーション能力と正確性の両立や、授業そのものがコミュニケーションの場であること、といった視点が必要になってくるでしょう。



2020年に向け、考えておくべきこと

最後に、英語の教科化に向けたキーワードと、今からできることについて考えてみたいと思います。

小学校英語教科化にむけたキーワード

- CAN-DO (目標設定と評価)
- 主体的・対話的で深い学び
- カリキュラム・マネジメント

「CAN-DOリスト」は、言語技能の到達目標ですが、あくまでも参照枠なので、これを現場のカリキュラムに落とし込んでいく必要があります。例えば、「This is ～.」という表現は、「This is ～.」という型を学ぶために学ぶものではありません。「人やものを紹介できる」という目標を立てたとき「This is ～.」という表現が役に立つから学ぶのです。「こういう目的で、こういうことができるようになってほしい」という意識でCAN-DO型の目標を定め、そのために必要なことを学習項目として設定していきます。

そして、それらの学習の成果を評価するには、例えば、「行ってみたい国の写真を見せながら発表する」というような、パフォーマンステストの導入も必要になると思います。

次に「主体的・対話的で深い学び」というキーワードですが、答申は、教員の一方的な教え込みでなく、子どもたちが仲間や教員と対話しながら「どのように学ぶか、さらに先には何があるのか」を発見する授業を求めています。

そこでの教師の大きな役割は、児童・生徒が学びの場面で、思考し、自己決定できるような環境づくりです。例えば「資料はこれだよ」と渡してしまうのではなく、子どもたちがいろいろ相談した結果、「こんな資料がほしいな」と思ったら、子どもたちの手が届くところにさりげなく置いてある、というイメージです。

カリキュラム・マネジメントについてはP13で少し触れましたが、限られた時間の中で、外国語科の時間をきちんと確保し、45分授業と短時間授業を有機的に組み合わせながら学びの質を上げていくが必要になってきます。

このように見てくると、問題山積という印象をもたれたかもしれません。でも、普段、子どもたちとよくコミュニケーションを取り、子どもたちの目が輝く瞬間がいつかを知っている先生なら、あまり心配はいらないでしょう。一つお願いしたいことは、ご自身が英語が苦手だったとしても、子どもたちが嫌いにならない方法を考えてほしいということです。減点法的な見方ではなく、「ここまでできるじゃない」というプラスの見方をしたいですね。そのためにも「CAN-DO」の考え方は役に立ちます。

2020年以降に向けて、まずは子どもたちが知っている英語はどんなことだろうといった観察から始めてみるのもよいのではないのでしょうか。



特集
どうする？
小学校英語

こう使う！

COLUMBUS 21

ENGLISH COURSE ①

ストーリー性に優れていると好評をいただいている

中学校の英語教科書『COLUMBUS 21』。

現場では、どう評価され、どのように使われているのでしょうか。実際に使用している学校を取材し、先生のインタビュー(前半)と授業リポート(後半)の2部構成でご紹介します。



トキワ松学園中学校高等学校



東京都目黒区にある中高一貫の私立の女子校。1916(大正5)年に創設。中学1年時から、「Listening & Speaking」の授業で、個人で発表する機会を多くつくり、「イングリッシュデイ」や「インターナショナルアワー」を設けたりすることで、ネイティブはもちろん、非英語圏の人たちとも、英語を介してコミュニケーションを図る機会をつくっている。

ひら やま あさ こ 平山朝子先生

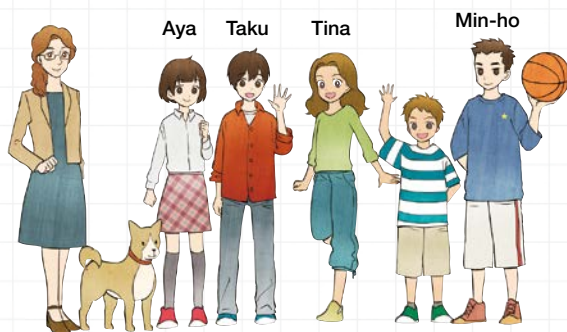
トキワ松学園中学校高等学校 英語科教諭
大学では英文学を専攻。教育実習で授業の楽しさに目覚め英語教師に。現場に出て英語教育についてより深く学ぶ必要性を感じ、修士課程に進学、修士号取得。その後、英国にて心理学の修士号を取得。2009年から現職。

ストーリー展開のおもしろさ

中学校英語教科書が平成24年度に改訂されたときに、英語科教員の満場一致で、『COLUMBUS 21』を採用することにしました。主な理由は、全体を通した**ストーリーがとってもいい**と感じたことと、この教科書の「英語を『聞く』活動、『話す』活動」の部分が、本校の「Listening & Speaking」の活動と相性がよさそうだったことです。また、**ネイティブの教員が、「この教科書の英語がいちばん自然だ」と**言っていたことも大きかったです。

実際に使ってみて感じたのは、想像以上に入り込みやすいストーリー展開と、それが生徒の英語学習に及ぼす影響でした。

主な登場人物は、中学生で同じクラスの男女



4人。音楽好きな少年タクと、韓国出身の少年ミンホ、心優しい女の子アヤ。この3人と同じクラスに、アメリカからティナという女の子がやってきます。この4人が出会って学校生活を共にし、一緒にいろいろなところへ出かけたり、互いのことを語ったりして、人間関係を築きながら、3年間で成長していくストーリーです。

生徒たちも、英語を通じてこの4人に感情移入し、異文化を学び、いろいろなテーマでクラ

スマートと語ったりしながら、4人と一緒に3年間かけて成長していくことができます。

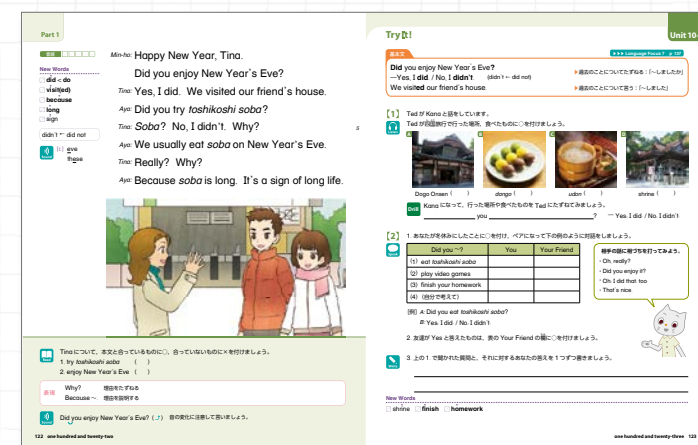
生徒たちは、「ほら、ティナがここでこんなふうに言ってるよ。やっぱりティナはタクのことが好きなんじゃない?」と、教科書を何回も読み返し、3年生になったときに「あ、そういえばあのときアヤは何て言ってたっけ?」と、2年生のときの教科書を読み返してみたりと、自発的に、学年を超えて何度も教科書に触れています。こんなふうに、**自然と繰り返し学習し、理解が深められるのも、3年間を通したストーリー展開のおもしろさにあるのではないかと**感じています。

1Unitを2回繰り返す

各Unitのストーリー(本文)は2~4セクションに分かれており、それぞれ生徒たちが読むのにあまり負担がない分量になっています。見開きで、左ページに本文と内容理解のためのクイズや表現、新出単語などがあり、右ページに基本本文やリスニング問題、ドリル、スピーキングの練習などがあります。

この教科書を使い始めた当初は、ページ順に本文を読んで内容を確認し、基本本文を中心に右ページを学習して、次の本文へ、という進め方をしていたのですが、**ストーリーがおもしろいので、途中で切ってしまうのはもったいないな**、と思いました。

そこで、まずはUnit内の本文だけを通して全て読んでしまう、という方法にしました。単語の意味や文法事項の確認もしますが、1回目は、ひとまずざっと読んで大まかな流れをつかむ感



見開きで左ページが本文、右ページが基本本文のまとめや、4技能を使うドリルや練習になっている。

じです。細かいところまでわからなくても、この段階ではあまり気にしません。細部にとらわれず、全体を俯瞰することも重要です。

2回目は、きっちりと本文の内容を確認し、右ページをメインに手や口を動かして練習します。教科書は、週に4コマ行うので、**だいたい2週間かけて1Unitを2回繰り返す**、という形になります。

単語については、大意をつかむのにも必要なので、Unit内の重要単語をまとめて、毎時間確認しています。単語は何度も繰り返さないと染み込んでいかないので、毎回きっちり練習を行うようにしています。

外国語(英語)を身につけることは、自分の世界を広げることであり、より多くの人と知り合える機会を得ることです。そのための素材となるのが教科書です。まずは教科書で習ったことを自分の中に浸透させ、それを今度は自分の言葉に変えて言えるようにするために、『COLUMBUS 21』は、適した教科書だと思っています。

平山先生の授業は次のページでご紹介!

こう使う！ COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE 平山先生の授業を レポート！

1年b組(生徒数:21名)

学習内容: Unit 10 Part 3(1回目)

本時の目標: Part 3の理解とPart 1,2の要点の復習



平山先生の授業は、英語の歌から始まる。今月の歌は、Stevie Wonder ft. Ariana Grandeの*Faith*。踊りだしたくなるようなアップテンポの曲で難しい単語も多いが、生徒は手元のプリントを見たり、電子黒板の映像を見たりしながら、楽しそうに歌う。

デジタル教科書を活用して、 音読練習

歌の次は、毎時間行われる単語練習。生徒には、Unit 10の重要単語として、17語をまとめたプリントが配られており、それを使って、5分ほどリピートやペア練習を繰り返した。

単語練習が終わると、Part 1とPart 2の本文の復習を行う。平山先生は、光村「英語デジタル教科書」のPart 1の本文を、電子黒板に映し

出した。デジタル教科書は、音声の流れると同時に、本文の色が変わっていくので、今読まれているところがわかりやすく、生徒たちの顔も上がる。続いて、Part 2の本文を読むと、「皆さんこのパートは上手ですね」と平山先生。「じゃあ、スピードを上げて読んでみましょう」と、デジタル教科書の読むスピードを上げた。デジタル教科書は、音読の速さを「ゆっくり」「ふつ」「速い」から自由に選べるので便利だ。

登場人物の気持ちに 寄り添う

ここでそろそろ授業も中盤。本時が初となるPart 3の本文に入る。平山先生は、生徒とやり取りをしながら、1文ずつ本文を読み、内容を確認していく。

●Unit10 Happy New Year

本文の内容: 元旦に、4人は車で待ち合わせて初詣に行く約束をしていたが、タクは風邪をひいてしまい……

	Part 1	Part 2	Part 3
1回目	第1時: 単語+本文	第2時: 単語+本文	第3時: 単語+本文 ★
2回目	第4時: 単語+本文+ドリルや練習	第5時: 単語+本文+ドリルや練習	第6時: 単語+本文+ドリルや練習
	第7時: 「You Can Do It!」お正月について話そう		
	第8時: 「Language Focus」YesやNoで答えられない疑問表現／「Writing Fun」メッセージカードを送ろう		

今日の
授業はココ！

先生 What a big lantern! lantern って何？
生徒1 ちょうちん。
先生 そうだね。何て大きなちょうちん！
Have you ever been to Asakusa?
生徒2 Yes, 雷門！
先生 そう。Have you been there?
行ったことある？

生徒の体験とも結び付けながら、日本語を交えて本文の確認を進める。

先生 ミンホがティナに What's your wish?
生徒3 願いごとは？
先生 そう、あなたの願いは何？って。
そうしたらティナは？
生徒4 秘密だよ(It's a secret.)、って。

するとここで、ある生徒が「ティナの願いはタクと結ばれますように！」。教室は大きな笑いに包まれた。

英語の文字文化も 学ぶ

Part 3の本文内容の確認がひととおり終わったところで、平山先生は、ティナのメールの「:-D」と「;-)」の部分に注目させた。

「顔文字じゃない？」「え、上のは顔文字にみえるけど、下のは違うんじゃない？」などと言いつつ生徒に、平山先生は「そう、これは顔文字なんです。こう」と、該当部分を90度右回転させた。その後、電子黒板を使って、日本とアメリカの顔文字をいくつか対照させ、その違いについて意見を言い合い、楽しんだ。

顔文字で盛り上がったところで、本文の要点整理に入る。「What +(a)+名詞!=なんて(…な)～なんでしょう！」「How +形容詞!=なんて～



なんでしょう！」というポイントを、生徒に問いかけながら黒板に書いていく。

今度は、再び電子黒板に本文を表示させ、みんなで動詞の過去形を探していく。見つけた過去形は、“ed”の部分の色を変える。Part 1と2の要点の復習だ。

最後は、疑問形と否定形の確認。黒板に書かれた「I enjoyed *hatsumode*。」という英文を、疑問文に変える。ノートに答えが書けた生徒は挙手し、平山先生が見て正解だった場合は、まだできていない生徒のところを回り、ヒントを出したり説明したりする。クラスのおおよそができたところで、一人の生徒が黒板に答えを書き、50分の授業が終了。

デジタルとアナログのハイブリッド型の授業に、ピアラーニングの要素が入り、まとまりのある授業が展開されていた。



本時で初めて学習したUnit 10 Part 3の本文。ここでは、見開きで左右のページとも本文となっている。



..... 第①回

小中をつなぐ ポイント

小中連携は、英語教育の大きな課題の一つです。この連載では6回に分け、小学校と中学校の学びをどのようにつないでいくのか、そのヒントを述べていきたいと思います。第1回では、小中連携のポイントを三つ挙げ、それぞれを説明します。

小中連携のポイント

POINT
1 何を学ぶ
(What to learn)

POINT
2 どう学ぶ
(How to learn)

POINT
3 CAN-DO

太田 洋

おおた・ひろし

東京家政大学教授

東京都生まれ。2002年東京学芸大学大学院修了。
東京都の中学校、東京学芸大学附属世田谷中学校教諭、
駒沢女子大学教授を経て現職。
中学校英語教科書
『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の
編集委員を務める。

1. 何を学ぶ(What to learn)でつなぐ

小学校で何を学んできたのか(体験してきたのか)を知ることが、まず小中連携のいちばん大切なポイントです。そのために望ましいことは、実際に小学校の授業を参観することや、小学校の先生の話聞くことですが、お互いに忙しく、見るができない、または見る事ができても年間1、2回というのが現状ではないでしょうか。話を聞くとしても状況は同じでしょう。

そこで「何を学んできたのか」を知るために手軽にできることは、『Hi, friends!』のような小学校の英語の授業で使われている教材を見ることです。

例えば、単語では、教科名、スポーツの名前、食べ物・飲み物の名前などを、活動を通して学びます。他にも外来語になっている単語を含め、音声を通して多くの単語を学んでいます。

このことを知っていると、中学校ではどのように授業でつなぐことができるでしょうか。キーワードは「引き出す」。生徒たちから小学校で学んできた英語を引き出すことです。

例えば、自己紹介をする活動では、I like ~. / I don't like ~. / I play ~. など、自己紹介をする文を示すときに、下の絵のように、小学校で扱った単語を引き出します。



2. どう学ぶ(How to learn)でつなぐ

小中連携のための二つ目のポイントは「どう学ぶ(How to learn)でつなぐ」ことです。つまり、小学校での英語の学び方を、中学校でも意識すること。そのためには、授業を見るのがいちばんですが、それができない場合は、アンケートを取るなどして知ることをおすすめします。

小学校での授業の特徴の一つは、先生が可能な限り英語で授業を進めていることです。このような授業では、児童はどのようにして英語を学んでいるのでしょうか。キーワードは「推測」。児童たちは、先生が伝える英語の意味を推測しながら聞いています。「推測しながら聞く」という学び方は、曖昧さに耐え、わかることから意味を理解しようとする、とても大切な姿勢です。このような姿勢を身につけた学習者は、言語習得にとって最も大切なインプットを、より多く得ることができます。

中学校では、先生のsmall talk、教科書本文の概要把握などの場面で、推測する学び方を継続していけるでしょう。Unit全体の概要を把握する活動*は、この学び方をつなぐのに最適です。

3. CAN-DOでつなぐ

小中連携のための三つめのポイントは、「CAN-DO」でつなぐことです。つまり、小学校で英語を使って「何ができるようになったか」、または「何ができつつあるか」を知り、それをつなぐことです。ここでのキーワードは「できつつある」。言語の学びは、「できる」「できない」の0%か100%ではありません。「できつつある」段階を知ろう、見ようとする事が大切です。

いちばんいいのは、小学校のCAN-DOリストを見て、小学校の先生方から何がどの程度で



※『COLUMBUS 21』(光村図書)、1年生 Unit 10の扉。
Unitの概要を掴むため、絵の並べ替えのタスクがある。

きるのか、できつつあるのかを聞くことだと思います。それが難しい場合は、使っていた、『Hi, friends!』のような教材を見て、生徒にアンケートを取るといいでしょう。それに加え、小学校で行った活動を、実際に教室で行って生徒がどのくらいできるかをモニターすることもおすすめです。

新入生のCAN-DOを測るためには、例えば次の活動をするのはいかがでしょうか。

- 聞く姿勢・力を見るには…small talk
- やりとりする姿勢・力を見るには…小学校で習った文法や語彙を使ったインタラクション、ALTとの1対1のおしゃべり
- 発表する姿勢・力を見るには…自己紹介ミニスピーチ

次号では、
「1.何を学ぶ(What to learn)でつなぐ」を、
さらに詳しくご紹介します。

小学校英語 お悩み相談室

第1回

2020年度から教科化される、小学校での英語教育。
初めてのことにとまどう先生も多いと思います。先生方のそのお悩みを、
英語教育のスペシャリストである小泉 仁先生が受け止めます。



QUESTION.1

英語が苦手です。
これから自分で英語の力をつけたいと
思っていますが、どんなことから
始めたらよいでしょうか。

A ALTの英語を 生きた英語教材だと考えよう

教員が教室で子どもたちに対して使う英語は、街の英会話学校に行ったら学べるようなものではありません。そこが、先生方も悩みどころなのではないでしょうか。

まず、お試しいただけたらと思うのは、ALTが子どもたちに出すすべての質問に、子どもと一緒に、小声で反応してみることです。これが第一歩かな、と思います。

そして次に、今度は指導者目線になって、ALTが出した指示をオウムのようにもう一度繰り返してみる。教室の後ろのほうに立ち、集中力を欠く子どもに、「ほら、前向いて」などと言うよりも、英語でALTの指示をまねて言ってみようが、子どもにとってもご自分にとっても効果的だと思います。**教室の、生の場面で使われるネイティブの英語を、ご自分の英語力アップのモデルとして利用しない手はありません。**

もちろん、市販のクラスルーム・イングリッシュに関する書籍などを活用するのも手だと思います。ただし、最初から順番にひたすら覚えていく、というようなやり方はなさらないほうがいいと思います。無理に全部覚える必要はまったくありません。パラパラと本を見てみて、「これは使えそうだな」と思ったものを2〜3個ピックアップして、それを毎回必ず言うようにする。例えば“Time is up. (時間切れですよ)”と“Put them away. (片づけて)”だけは必ず言うようにする、など、ターゲットを絞り込んで使っていくのがいいのではないかと思います。

本当にどうしようもなく英語が苦手、という先生は、“Look.”と“Listen.”だけでも構いません。むしろ短い指示のほうが、子どもにも届きやすいと考えましょう。子どもたちに届くのは、長くても5語くらいの英文です。

とにかく、変に気負うことなく、ご自分のできる範囲のことから始めて、まずは先生が英語を楽しめるようになる、といいですね。

小泉 仁 こいずみ まさし

東京家政大学教授

元・文部科学省初等中等教育局教科書調査官。

日本児童英語教育学会(JASTEC)会長。

一般財団法人語学教育研究所理事。

中学校英語教科書

『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の

編集委員を務める。

どんなお悩みにも
お答えします



QUESTION.2

校内に掲示する、
英語の掲示物をつくろうと思います。
どのようなことに気をつけたら
よいですか。

A 脱・壁面装飾 年間計画を立てて効果的に

英語掲示のポイントは、**①さまざまな場所に、②計画的に、の二つです。**逆にあまりよくないな、と思うのは、一か所に集中させ、壁の隙間を埋め尽くすように、あれもこれも貼ってしまうことです。単なる壁面装飾になってしまっただけでは、意味がありません。テーマごとに場所を変えるなどして、秩序立てて貼ることを心がけたいものです。

ここの階段には月の名前が、あちらの階段には週の名前が貼ってある……というように場所を決めて、子どもたちにサブミナラルな効果を与えるものになる、いいと思います。そしてときどき、単語の順番を入れ替えたりして、子どもが「あれ？ 前と何か変わってる？」と気づいたら、もっと意識して掲示を見るようになるかもしれません。

さらに、掲示物にもクイズ要素を入れておくと、子どもたちは興味をもって目にとめ

やすいですね。例えば、アルファベットを出すときには順番通りに並べておくだけでなく、「a・c・e」「f・h・l」「g・j・q」といったグループに分けて貼っておく。これは4線に書いたときに1段だけで済むもの、上2段を使うもの、下2段を使うもの、という分け方ですが、子どもたちは、何かな、と考える。ちなみに、「g・j・q」などは、よく「地下室のある文字」と呼ばれます。この方法は、小文字を教えるときに効果的です。

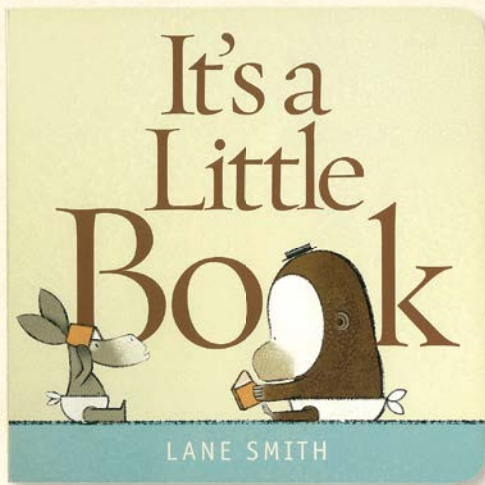
それから、掲示物にも年間計画があったらいいと思います。校内の掲示物は、子どもたちが英語のつづりになじんでいくためのものですから、単語の選択にも計画性が必要です。

年間計画を立てれば、季節やそのときの学校行事に合わせた掲示もできますよね。例えば、6月だったら雨に関する語を並べたらおもしろいかもしれません。

貼ったきりで放置せずに、こまめに入れ替えたり、子どもたちの反応をみたりしながら、効果的な掲示にしたいですね。

子どものためのBOOKGUIDE

— 1 —



It's a Little Book

著者：Lane Smith
出版社：Macmillan Children's Books

ぼくは英語教育の専門家ではないので、このコーナーでは翻訳家の目からみた、楽しい絵本や素敵な絵本を紹介していこうと思います。

まず、1冊目はレイン・スミスの絵本を。

レイン・スミスは世界中で大人気の絵本作家で、日本でも多くの作品が訳されています。『おおきなベツたち』『めがねなんか、かけないよ』など、どれも園児から、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんまで絶対好きになる絵本です。

さて、この*It's a Little Book*、まず表紙が素晴らしい。本をかぶっているロバくんと、本を読んでいる……サルくん？ ゴリラくん？ とりあえず、サルくんにしておきましょう。

最初、ロバくんが本を指して、“What is that?” “Is it for chewing?”と、たずねます。するとサルくんがひと言、“No.”

このあと、ロバくんが“for wearing?” “for flying?”

“for riding?” “for building?” “for calling?” などときくのですが、サルくんの返事は“No.”

例えば、wear, chew, ride, buildなんて単語の意味は知らなくても、絵でわかります。絵をみながら、意味を当てっこするのも楽しそうです。たまに、quackなんてちょっと難しいのも出てくるし。

あと、知っている簡単な動詞を使って、勝手に話を作っちゃうというのもありですね。

“Is it for swimming?” “No.”

“Is it for running?” “No.”

“Is it for thinking?” “Yes.”

とか、遊べそうです。こういう遊び方は、子どもの方がいいアイデアを出してくれそうですね。

え、この絵本、最後はどうなるんだって？ ぜひ、読んでみてください。とても、かわいいです。

それにしても、最後の“silly”，なんて訳しましょうか。翻訳って、難しいですね。

※この本の出版社Macmillan Children's BooksがYouTubeに動画をアップしています。
ロバくんとサルくんのかわいらしい掛け合いがご覧いただけますので、書名で検索してみてください。

金原瑞人
かねはら・みずひと
岡山県生まれ。翻訳家、法政大学社会学部教授。法政大学文学部英文学科卒業後、同大学院修了。訳書は児童書、一般書、ノンフィクションなど400点以上。日本にヤングアダルト(YA)というジャンルを紹介。中学校英語教科書『COLUMBUS 21 ENGLISH COURSE』(光村図書)の編集委員を務める。

光村図書ウェブサイトのご案内

小学校道徳に関する資料や、日々の授業に役立つ読み物をたくさん掲載しています。



今すぐアクセス！

小学校道徳
特設コンテンツ



平成30年度版 小学校「道徳」教科書の内容をご紹介します動画やコンテンツがご覧いただけます。また、キーワード解説、ソーシャルスキル、情報モラル、場面絵の活用のしかた、文部科学省の最新情報など、道徳に関連する情報が満載です。

上記のコンテンツは、
スマートフォンにも対応しています。
移動中の電車の中で、外出先で、
ぜひご覧ください。



今すぐアクセス！

みつむら
web magazine



「青山先生の国語教室」、「『語りかける』英語教育」、「通常学級における特別支援教育」など、明日の授業に役立つ読み物を、日々更新しています。

